

【優秀賞】

北方領土について考えたこと

北斗市立大野中学校

2年 神 胡々菜

私は学校の社会科の学習で北方領土の元島民の方やその子孫の方々の体験談を聞かせていただきました。今回はその話を聞いて考えたこと、またこれからの私たちの課題を伝えていこうと思います。

まず最初に私たちの組は岩崎さんという方のお話を聞きました。その方は母が元島民ということで母から聞いた話を話してくれました。私がお話を聞いて心に残ったことは、その方のたった一つの想い、北方領土の島に自由に行きたいという想いを強く主張していたことです。私はその想いを聞いて北方領土問題の事の重大さを知りました。正直、私は北方領土問題にそこまで関心がありませんでした。けれどこの想いを聞いて、自分が思っていたよりこの問題が重大で、今でも解決すべく立ち向かっている人がいる事を知って、少し感動したし、もう少し考えなければいけないんだなと思いました。

この他にも、岩崎さんは今でも領土の周りにはロシアの船が警備している事や母親の北方領土での生活の仕方、第二次世界大戦後の様子などをくわしく話してくれました。また私たちが事前に考えて送った様々な質問にも答えていただき、その1時間で自分がものすごく北方領土にくわしくなれたような気がしてとてもうれしかったです。

また「ジョバンニの島」というアニメ映画も観ることができて北方領土の学校生活やロシア人との関係などを深く描いていてとても感動したし北方領土への関心が深まった、自分にとってのきっかけとなりました。

それらを経験させていただいたことをふまえて考えた私たちの課題は、北方領土への興味を持ち、私たちの国、日本全体で立ち向かっていくことだと思います。しかし私たち若者は、北方領土がある北海道以外はもちろんのこと、ましてやその北海道でさえも興味を持っている人は少ないと私は思っています。岩崎さんも、「前に本州などでこのような授業を開いたときに、北方領土をくわしく知っていますか、と質問しても知らない人が多かった」と話してくれました。実際、私もそのような人たちの内の一人でした。けれど今回行ってくださった授業のおかげで問題の重大さ、また歴史などを知ることができ興味を持てるようになりました。この経験をできたからこそ私はもっとこのような授業を日本各地で増やして行くべきだと思います。そして興味を持てるようになると、より一層北方領土問題への関心が深まり日本全体で立ち向かっていくことができると思います。特に後世に継いでいける私たち若者の立場がもっと重要になるのでこの授業を受けさせていただいたことをきっかけに更に関心を深め、この問題が一步步でも解決に近づいていけるように北方領土と関わっていきたいです。